

庄内川河川事務所の事業概要

国土交通省 中部地方整備局
庄内川河川事務所長 鈴木 高



図1 庄内川流域図



図2 枇杷島地区 狭窄部対策 (令和7年5月撮影)



1. はじめに

庄内川は、その源を岐阜県恵那市の夕立山に発し、岐阜県内では土岐川と呼ばれ、岐阜愛知の県境に位置する玉野溪谷を抜け、伊勢湾に注ぐ一級河川です。流域には、中部圏最大の都市である名古屋市の市街地等があり、中部圏の中核機能や各種交通機関の拠点が集中しており、この地域における社会・経済・文化の基盤を成しています(図1)。

所では、土岐川・庄内川の河川改修、維持管理、環境整備、及び小里川ダムの管理を行っています。このうち河川改修については、東海豪雨と同規模の洪水による被害を防止することを目標に堤防整備や河道掘削等の河川整備を行っており、令和7年度もこれらを着実に進めています。

愛知県内では、枇杷島地区(名古屋市西区・清須市)の狭窄部対策や河道掘削による流下能力向上、堤防の高さ

や断面の不足解消のための堤防整備を進めています。枇杷島地区の狭窄部対策として実施している「特定構造物改築事業」(橋梁の架け替え及びそれに伴う堤防整備)については、県道枇杷島橋の仮橋が完成し、旧橋の撤去を進めています(図2)。

また河道掘削は日比津地区(名古屋市中村区・清須市)で水陸両用ブルドーザを用いて掘削し、夏休みには親子見学会を開催し河川整備や流域治水の取り組みについての広報活動も行いました(図3)。

2. 主な事業の概要

庄内川河川事務所



図3 日比津地区 水陸両用ブルドーザによる河道掘削の状況 (令和7年8月撮影)



図4 上条地区 堤防開削調査 (令和7年10月撮影)



図5 小里川ダム ライトアップと灯籠 (令和6年12月撮影)

さらに堤防整備については大野木地区(名古屋市西区)・上条地区(春日井市)等でそれぞれ進めており、そのうち上条地区では堤防を開削し既存の老朽化した樋管を撤去して堤防整備をしています。この工事の中で堤防の築堤履歴・構造・土質等を確認し堤防の健全度を把握するために行った堤防開削調査では、専門家を招いたほか国交省職員・地元自治体職員も参加し技術力向上にも努めました(図4)。

岐阜県内では、月見地区(多治見市)で、環境や景観の保全に配慮しながら狭窄部の河道掘削を行うための調査設計等を進めています。このほか、かわまちづくり(まちと河川が連携した空間整備)として、豊岡地区(多治見市)において市と連携した散策路や多目的

広場等の整備を行い、環境学習やアウトドア体験などに活用する賑わいある河川空間の整備を進めています。

また小里川ダム(恵那市・瑞浪市)は、治水・利水(発電)・環境の3つの役割をもつ多目的ダムとして管理しています。「地域に開かれたダム」にも指定されており、地域と共働して水源地域活性化に向けた取り組みを進めています(図5)。

3. 東海豪雨25年の取り組みと流域治水のさらなる深化

昨年は東海豪雨から25年の節目の年でした。庄内川で観測史上最大の流量を記録した洪水を振り返り、気候変動の影響により激甚化する水害への備えにつなげる取り組みを実施しました。



図6 東海豪雨25年ロゴマークとキャッチフレーズ

具体的には、ロゴマークとキャッチフレーズの作成(図6)、「水防災」をテーマに加えた研究・作品の募集(図7)、流域治水を取り組んでいる関係機関で配布している流域治水カードの東海豪雨25年に学ぶバージョンの作成・配布(図7)等の啓発活動を継続して実施しました。特に昨年実施した研究・作品募集では、スマホ(写真・動画)部門、絵画部門、研究部門について40作品超の応募がありました(図8)。

4. おわりに

このような取り組みを流域市町や建設業等の皆様と力を合わせながら進め、庄内川流域の住民の皆様のいきいきとした生活に貢献できるよう努めて参ります。



図7 土岐川・庄内川をテーマにした作品・研究の募集チラシ



図8 流域治水カードの東海豪雨25年バージョン(表・裏)